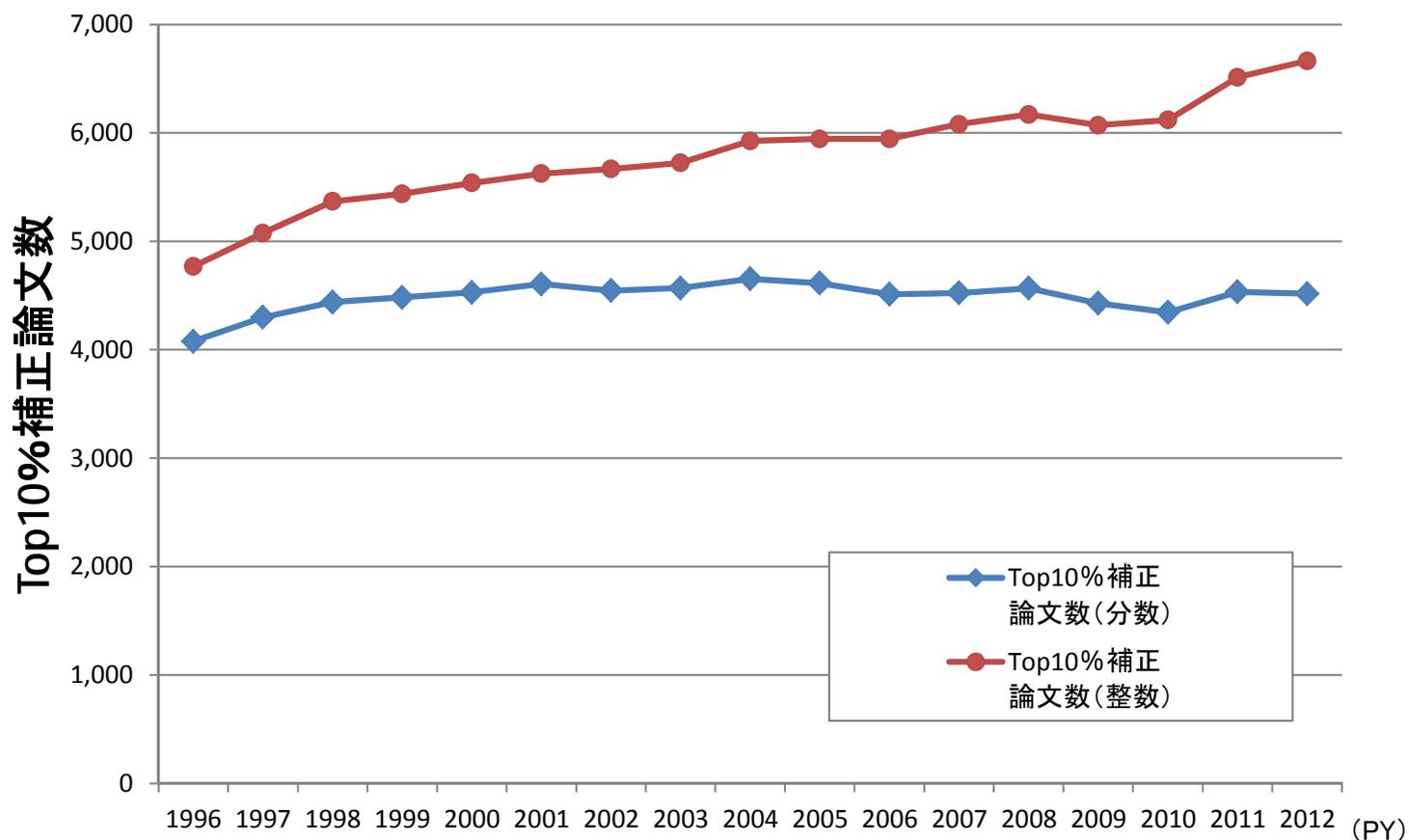


我が国のTop10%補正論文数の推移

○我が国のTop10%補正論文数は、整数カウントでは漸増傾向。分数カウント法では横ばい。



※ Article, Reviewを分析対象とし、整数カウント法、分数カウント法により分析。年は出版年である。

※ データベース収録の状況により単年の数値は揺れが大きいことに留意

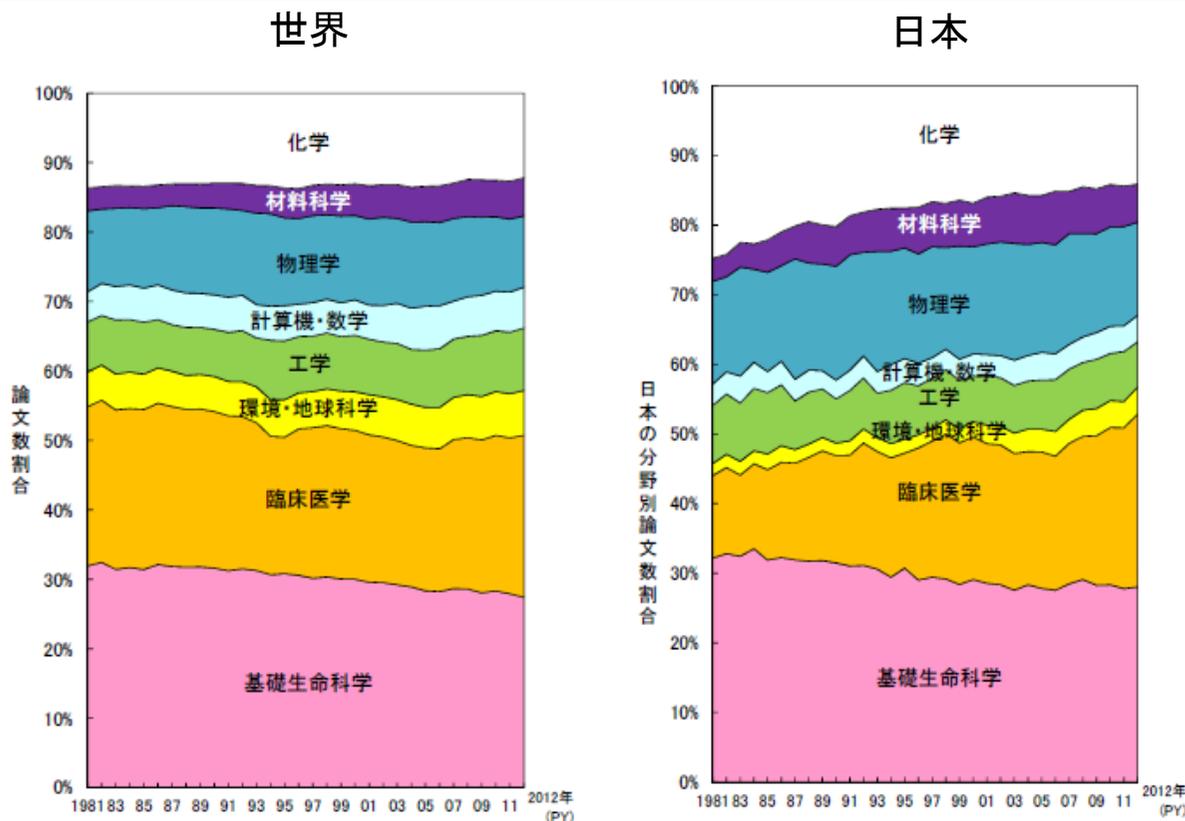
※ Top10%補正論文数とは、被引用回数が各年各分野で上位10%に入る論文の抽出後、実数で論文数の1/10となるように補正を加えた論文数を指す。被引用数は、2013年末の値を用いている。

※ トムソン・ロイター社Web of Scienceを基に、科学技術・学術政策研究所が集計

出典：科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2014」調査資料-229（平成26年8月）を基に文部科学省作成

我が国の科学論文の分野別割合推移、分野別論文世界シェア

- 我が国の科学論文数の分野別割合は、臨床医学が増加傾向にある一方、化学が減少。
- 分野別に見ると、計算機・数学のシェアが低い。



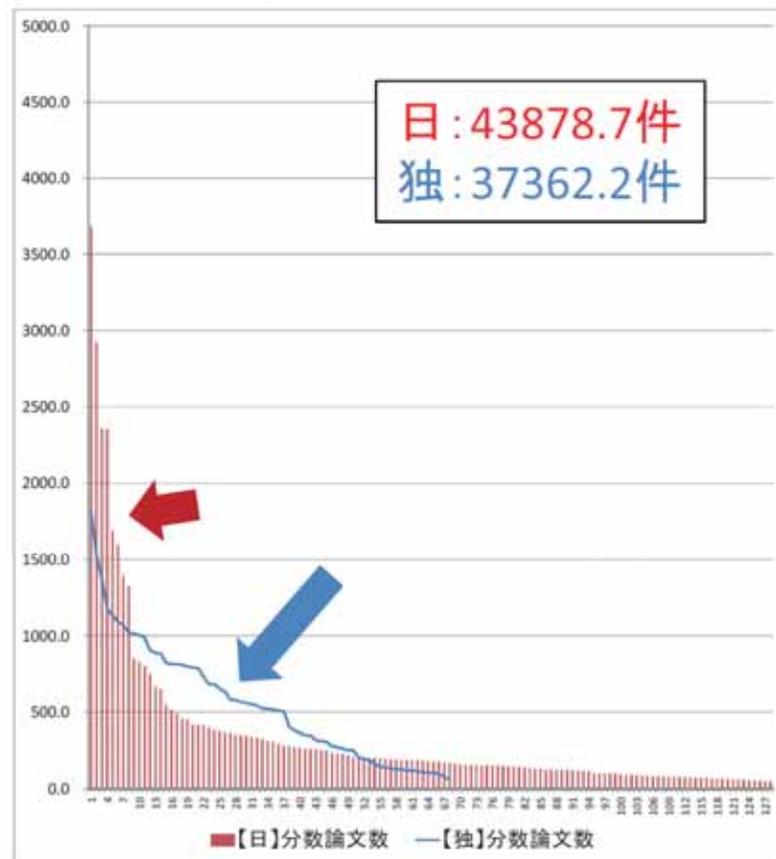
※ 被引用数は、2013 年末の値を用いている。

- ※ 分析対象は、article, reviewである。分数カウント法による。
 - ※ 物理学：物理学、宇宙科学
 - ※ 計算機・数学：計算機科学、数学
 - ※ 環境・地球科学：環境/生態学、地球科学
 - ※ 臨床医学：臨床医学、精神医学/心理学
 - ※ 基礎生命科学：農業科学、生物学・生科学、免疫学、微生物学、分子生物学・遺伝学、神経科学・行動学、薬理学・毒性学、植物・動物学
- 資料：トムソン・ロイター社 Web of Science (SCIE, CPCI:Science)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計

日独の個別大学の論文数およびTop10%論文数の分布の比較

- 日本とドイツを比較した場合、上位校の論文数及びTop10%論文数が多い一方で、中位校の論文数及びTop10%論文数が少ない。

論文数_全分野



Top10%論文数_全分野



途中結果であり、最終的な結果が変わる可能性がある。

我が国の論文数世界ランク（分野毎）の推移

○我が国の、論文数、Top10%補正論文数の世界ランクは、ほぼ全ての分野において低下傾向。

日本	全体			化学			材料科学			物理学			計算機科学・数学			工学			環境・地球科学			臨床医学			基礎生命科学		
	ALL	Top10	Top1	ALL	Top10	Top1	ALL	Top10	Top1	ALL	Top10	Top1	ALL	Top10	Top1	ALL	Top10	Top1	ALL	Top10	Top1	ALL	Top10	Top1	ALL	Top10	Top1
1																											
2	●			●	●		●	●	●	●					●											●	
3	●			●	●	●	●	●	●	●					●	●						●				●	●
4		●	●		●	●		●	●	●		●				●	●	●				●	●			●	●
5		●	●			●		●									●	●								●	●
6		●	●									●														●	●
7			●																								
8													●				●	●					●	●			
9																											
10													●			●	●			●			●	●			
11													●							●							
12																											
13																											
14																											
15																											
16																											
17																											
18																											
19																											
20																											

1999-2001年の日本の位置



2009-2011年の日本の位置

(注) 分数カウント法による。矢印の根元が1999-2001年の順位、矢印の先が2009-2011年の順位を示している。

出典：科学技術政策研究所「科学技術のベンチマーキング2012」調査資料-218（平成25年3月）

高被引用論文を産出している我が国の研究拠点数の推移

○論文被引用数上位20位以内の日本の研究機関数（22分野の合計数）は、2007年から2011年で見えた場合は、のべ15機関であり、2006年以前より減少。また、同様に上位50位以内の機関数を見た場合は、のべ54機関であり、こちらも減少。

■22分野において被引用数上位20位以内の日本の研究機関数(のべ出現数)

年	1997-2001	2002-2006	2007-2011
機関数	22	23	15

■22分野において被引用数上位50位以内の日本の研究機関数(のべ出現数)

年	1997-2001	2002-2006	2007-2011
機関数	52	61	54

※22分野は、トムソン・ロイターサイエンティフィックの分類に基づき、化学、材料科学、物理学、宇宙科学、計算機科学、数学、工学、環境/生態学、地球科学、臨床医学、精神医学/心理学、農業科学、生物学・生化学、免疫学、微生物学、分子生物学・遺伝学、神経科学・行動学、薬理学・毒性学、植物・動物学、経済学・経営学、複合領域、社会科学・一般を指す。

出典：科学技術政策研究所「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011」調査資料-213（平成24年8月）を基に文部科学省作成